コーププラス × SDGs

コープデリ連合会
食卓を笑顔に、地域を豊かに。

We Support unicef

ハッピーミルクプロジェクト

コープの牛乳で子どもたちを笑顔に

コープの牛乳の売り上げの一部をユニセフに寄付し、アフリカの子どもと母親たちの栄養改善を支援している「ハッピーミルクプロジェクト」。現在支援しているアフリカ・コートジボワール共和国を、コープデリ連合会の役職員が視察しました。コロナ禍で遅れた支援を取り戻すべく、現地では多くの関係者が協力し、取り組みが進められています。

現地の子どもたち、母親たちと、視察に参加した長嶋さん（写真中央）。「子どもたちが笑顔であってほしい」という親の願いは世界共通

コートジボワールってどんな国？

西アフリカに位置し、日本と同じぐらいの面積で、人口は2,800万人ほど。約10年続いた政治的危機を経て経済発展しつつありますが、北部を中心に電気が通っていなかったり、手でくみ上げる井戸しかない集落がまだ多くあります。こうした地域ではたくさんの子どもの命が失われており、1日も早い支援が必要です。

13人に1人が5歳を迎えられない

コートジボワールでは子どもの13人に1人が5歳を迎えられず、年間6万8千人以上の命が失われています。その半数以上が「栄養不良」によるもの。現地では古くからの慣習や知識不足が原因で、生まれてすぐの赤ちゃんに水を飲ませたり、離乳食が月齢に合っていなかったりします。子どもの成長に必要な栄養が足りないため下痢や病気にかかりやすく、命を落としてしまうことがあるのです。

出典：世界子供白書2023

コミュニティ栄養センターでは、子どもの腕の太さを専用のメジャーで測り、栄養状態を確認

子どもたちの栄養不良の改善を支援

こうした子どもたちを支援するため、ハッピーミルクプロジェクトではユニセフを通じて同国北部での栄養支援プログラムを実施。「FRANC（フラン）」と呼ばれるコミュニティ栄養センターを各地に設立し、定期的に子どもたちや妊産婦の栄養状態をチェックしたり、栄養不足の子どもの早期発見・予防につなげています。また母乳育児の大切さを伝え、子どもの年齢に応じた食習慣をつけるため、母親への教育も行っています。

字が読めない母親も多いため、紙芝居で子どもの栄養改善に大切なことなどを説明します

現地の人たちが自立できるようサポート

フランではこうした支援のほかに、子どもの保育・教育活動もしています。敷地内の遊具で子どもたちは遊びながら学び、体力をつけることができます。母親たちは安心して遠く離れた畑に行くことができ、多様な農産物を作れるようになりました。

こうした支援は、ユニセフや政府、地元NGOなどが協力して進めています。地域の状況を把握し、必要に応じて支援することで、地域の人々の自立につながるからです。また現地の「女性農業協同組合」と連携し、地元で必要な食糧の生産と女性の自立支援を進めています。

住民手作りの知育遊具には色が塗られ、「青！白！」などのかけ声にあわせ、遊びながら言葉を学習

動画も公開中！

コープの牛乳で、子どもたちを支援できます

1. co-op このマークの牛乳をお買い求めください
※魚沼牛乳、ゆめっ子牛乳も対象です
2. 売り上げの一部をユニセフに寄付します
3. ・コートジボワール共和国の子どもと母親たちの栄養支援プログラムに役立てられます
・災害などで苦しむアフリカの子どもたちを支援します

宅配では募金も受け付けています

OCR 注文書やコープデリeフレンズ、アプリなどで下記の申込番号とご希望の口数をご記入ください

1口100円	286702	1口10ポイント	287059
1口1,000円	286711	1口100ポイント	287067
		全ポイント（数量欄に1と記入）	287075

※1ポイント=1円。お預かりした募金は「寄付金控除」の対象にはなりません。

現地の様子を視察しました！

コープデリ連合会　常務理事　河田喜一（かわだきいち）さん
同サステナビリティ推進部　長嶋行子（ながしまゆきこ）さん

2008年から始まったこの取り組みは、アフリカのモザンビーク共和国、シエラレオネ共和国を経て、現在コートジボワール共和国を支援しています。牛乳を通じた支援としたのは、より多くの組合員に子どもたちの状況を知ってもらい、参加してほしいからです。今回の視察では、地元の協力団体や政府、ユニセフなどが一緒になって、人々が自立していくための支援が進められていることがよく分かりました。私たちのハッピーミルクプロジェクトは、多くの母親への支援、そして子どもたちの笑顔につながっています。

現地の協力団体が母親たちに栄養の学習や離乳食の調理実演を行っている。河田さんも離乳食の試食に参加

コープデリグループは、事業と活動を通して「SDGs（エスディージーズ）（持続可能な開発目標）」の達成を目指しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

今回の取り組みは、目標12：つくる責任 つかう責任 につながっています。